

12:1 また、巨大なしるしが天に現れた。ひとりの女が太陽を着て、月を足の下に踏み、頭には十二の星の冠をかぶっていた。 12:2 この女は、みごもっていたが、産みの苦しみと痛みのために、叫び声をあげた。 12:3 また、別のしるしが天に現れた。見よ。大きな赤い竜である。七つの頭と十本の角とを持ち、その頭には七つの冠をかぶっていた。 12:4 その尾は、天の星の三分の一を引き寄せると、それらを地上に投げた。また、竜は子を産もうとしている女の前に立っていた。彼女が子を産んだとき、その子を食い尽くすためであった。 12:5 女は男の子を産んだ。この子は、鉄の杖をもって、すべての国々の民を牧するはずである。その子は神のみもと、その御座に引き上げられた。 12:6 女は荒野に逃げた。そこには、千二百六十日の間彼女を養うために、神によって備えられた場所があった。 12:7 さて、天に戦いが起こって、ミカエルと彼の使いたちは、竜と戦った。それで、竜とその使いたちは応戦したが、 12:8 勝つことができず、天にはもはや彼らのいる場所がなくなった。 12:9 こうして、この巨大な竜、すなわち、悪魔とか、サタンとか呼ばれて、全世界を惑わす、あの古い蛇は投げ落とされた。彼は地上に投げ落とされ、彼の使いどもも彼とともに投げ落とされた。 12:10 そのとき私は、天で大きな声が、こう言うのを聞いた。「今や、私たちの神の救いと力と国と、また、神のキリストの権威が現れた。私たちの兄弟たちの告発者、日夜彼らを私たちの神の御前で訴えている者が投げ落とされたからである。 12:11 兄弟たちは、小羊の血と、自分たちのあかしのことばのゆえに彼に打ち勝った。彼らは死に至るまでもいのちを惜しまなかった。 12:12 それゆえ、天とその中に住む者たち。喜びなさい。しかし、地と海とには、わざわいが来る。悪魔が自分の時の短いことを知り、激しく怒って、そこに下ったからである。」 12:13 自分が地上に投げ落とされたのを知った竜は、男の子を産んだ女を追いかけた。 12:14 しかし、女は大鷲の翼を二つ与えられた。自分の場所である荒野に飛んで行って、そこで一時と二時と半時の間、蛇の前をのがれて養われるためであった。 12:15 ところが、蛇はその口から水を川のように女のうしろへ吐き出し、彼女を大水で押し流そうとした。 12:16 しかし、地は女を助け、その口を開いて、竜が口から吐き出した川を飲み干した。 12:17 すると、竜は女に対して激しく怒り、女の子孫の残りの者、すなわち、神の戒めを守り、イエスのあかしを保っている者たちと戦おうとして出て行った。 12:18 そして、彼は海べの砂の上に立った。

## 導入

11 章 15-19 節については、黙示録 20 章の学びのときに関連して学ぶ予定にしていますので、ご安心ください。このふたつの箇所は、どちらもイエス・キリストが将来地上を支配なさることについて語っている箇所です。ですから、いっしょに学ぶのが適切だと考えました。この箇所には心が躍るようなすばらしい出来事が記されているので、一気に学びたいですし、20 章の学びのときに 11 章を何度も引用しなければならぬとややこしいので、まとめて学ぶのがよいでしょう。

では、12 章に入りましょう。

12 章には、3 つの登場人物がいます。

「女」「子」そして「竜」です。

今日の箇所を黙示録全体の枠組みの中で理解するためには、この登場人物が誰であるかを知る必要があります。

### 1. 女

1 節の冒頭に、「巨大なしるしが天に現れた」とあります。

「しるし」と訳されたギリシャ語の単語は、「セーメイオン」です。これは、実際の事実の象徴を指す単語です。

結婚指輪をしていれば、それはその人が結婚しているという事実を示します。

墓地の墓石には、そこに埋葬された人や納骨されている人が亡くなったという事実を示す文字が刻まれています。

ここでは、何かを象徴的に示している「女」について考えています。

この「女」は誰か、または何かの象徴です。

黙示録には 4 人の「女」が何かの象徴として登場します。私たちが今学んでいる 12 章の

「女」は、イスラエルの象徴です。

こう結論付けた根拠について説明しましょう。  
では、5節を読みましょう。

黙示録 12:5 女は男の子を産んだ。この子は、鉄の杖をもって、すべての国々の民を牧するはずである。その子は神のみもと、その御座に引き上げられた。

ここには、鉄の杖をもってすべての国々の民を牧する男の子を女が産んだとあります。そして、その子は神のみもと、神の御座へと引き上げられました。  
旧約聖書では、姦淫を犯す妻としてイスラエルは描かれています。

では、そのように描かれている個所をいくつか読みましょう。

エレミヤ 3:1 もし、人が自分の妻を去らせ、彼女が彼のもとを去って、ほかの男のものになれば、この人は再び先の妻のもとに戻れるだろうか。この国も大いに汚れていないだろうか。あなたは、多くの愛人と淫行を行って、しかも、わたしのところに帰ると言っている。——  
【主】の御告げ——

エレミヤ 3:20 ところが、なんと、妻が夫を裏切るように、あなたがたはわたしを裏切った。イスラエルの家よ。—— 【主】の御告げ——

エレミヤ 3 章はすべて、不実なイスラエルについての記述です。

エゼキエル 16 : 32-36

16:32 姦婦は、自分の夫の代わりに、ほかの男と通じるものだ。 16:33 遊女には、すべて代価が支払われるのに、あなたは、自分のほうから持参金をすべての愛人たちに与え、彼らに贈り物をして、四方からあなたのところに来させて姦淫をした。 16:34 だから、あなたの姦淫は、ほかの女の場合と反対だ。だれもあなたを求めて姦淫をする者はいなかった。あなたが報酬を支払い、だれもあなたに報酬を支払わなかった。だからあなたは反対のことをしたのだ。 16:35 それゆえ、遊女よ、【主】のことばを聞け。 16:36 神である主はこう仰せられる。あなたは、愛人たちや、忌みきらうべき偶像と姦淫をして、自分の恥ずかしい所を見せ、自分の裸をあらわにし、それらに自分の子をささげて血を流したため、

エゼキエル 16 章もまた、不実なエルサレムについての記述です。

では最後に、イザヤ書 50 : 1 がさらに明らかな根拠を示してくれます。

イザヤ 50:1 【主】はこう仰せられる。「あなたがたの母親の離婚状は、どこにあるか。わたしが彼女を追い出したというのなら。あるいは、その債権者はだれなのか。わたしがあなたがたを売ったというのなら。見よ。あなたがたは、自分の咎のために売られ、あなたがたのそむきの罪のために、あなたがたの母親は追い出されたのだ。

聖書には、12 章に登場する女がイスラエルの民を象徴しているという根拠が示されています。1 節には、この「女」についての説明があります。  
女は「太陽」を着ていました。  
これは、イスラエルの栄光や尊厳、および神の選民という高貴な身分をあらわします。

申命記 7:6 あなたは、あなたの神、【主】の聖なる民だからである。あなたの神、【主】は、地の面のすべての国々の民のうちから、あなたを選んでご自分の宝の民とされた。

「月」もまたイスラエルを表します。  
旧約聖書には、イスラエルの祭礼に月が含まれていたことが記されています。  
民数記 29 : 6 には、ラッパの祭りでのささげ物について記されていますが、そこに、「新月際」の穀物のささげ物という表現があります。

さらに、女は頭に十二の星の冠をかぶっていたと記されています。  
この冠と訳されたギリシャ語の単語は「ステファノス」であり、勝利の冠を指します。  
苦難の只中での勝利を示しています。  
12の星は、イスラエルの12部族のことです。

これらを総合すると、やはり女はイスラエルの象徴です。  
ヨハネは、この女の状態を説明します。  
女は産みの苦しみと痛みで叫んでいます。  
女性が陣痛を経験するのと同じです。  
今日ここに、出産経験のある女性はいますか。  
子を産んだことがあれば、その痛みが尋常でないことはわかるでしょう。  
イスラエルの民はメシヤが来られるのを待つ痛みを経験していました。  
ここで興味深いことがあります。女性が陣痛を感じ始めると、赤ちゃんは必ず生まれます。  
それを止めることはできません。  
神がそのように造られたのです。  
イエスの再臨も止めることはできません。いつか必ずその日はやってきます。終わりの時にイスラエルは重要な役割を担います。  
この痛みを引き起こす原因のひとつは、サタンによる迫害です。  
創世記3章で贖い主が約束されて以来、サタンは常にイスラエルを滅ぼそうと試みてきました。  
イスラエルほど長くつらい苦しみを経験した国は歴史上他にありません。  
イスラエルは、神による懲らしめと、サタンによるイスラエル滅亡の試みという二重の苦しみを受けました。  
第二次世界大戦中、ただユダヤ人だという理由だけで600万人もの人が殺されました。  
毒ガス室に入れられた人や焼き殺された人もいました。  
この大量虐殺は、人類史上最悪の犯罪行為とされています。  
イスラエルに対する戦いが大患難時代に入っても続いているのも不思議ではありません。  
この女がどうなるのか、つまり、大患難時代にイスラエルに何が起こるのか、後ほど見ていきましょう。

## 2. 竜 (3節)

次に登場するのは大きな赤い竜です。  
この正体はすぐにわかります。  
9節には、サタンと呼ばれる悪魔だと記されています。  
イスラエルが実際に女ではないのと同じで、サタンも実際には竜ではありません。しかし、象徴として使われた言葉から、その性質について想像できます。  
サタンが竜として描かれているのは黙示録だけです。  
イエスはサタンのことを、「初めから人殺し」と呼ばれました。(ヨハネ8:44)  
悪魔は、欺き、混乱を起こし、わき道にそらせ、この世にある良いものすべてを滅ぼそうとします。  
悪魔は魅力的な印象を与えます。聖書も悪魔を光の御使いと表現します。  
現代的にわかりやすく言うなら、悪魔はサバを釣るのに使われる仕掛けのようだと言われます。  
サバは水の中で光るものに引き寄せられます。  
釣り針の先にアルミホイルをくっつけておいても、イギリス海峡ならサバが釣れるでしょう。  
サバは、光る物を見ると、それに食いついてしまうので、釣り針にひっかかります。  
悪魔も同じです。悪魔は何か魅力的に見えるものを仕掛けます。人がその誘惑に反応するとひっかかってしまって、そこからなかなか抜け出せなくなります。  
最近、フェイスブックであるゲームの広告を見ました。子どもたちの興味を引くようなきれいなパッケージに入っていました。  
これは、子どもたちが悪霊や暗闇の世界に興味を持つようにとサタンが仕掛けたゲームです。  
悪霊や暗闇の世界は、目に見えなくても存在します。  
このゲームはウィジャ盤というもので、西洋版のこっくりさんです。  
それほど害はなさそうに見えますが、このゲームにまつわる本当にあった恐ろしい話があります。

私がロンドンで牧師をしていたときの事です。あるとき、うつ症で問題行動のある男性が教会にやってきました。

あるとき、彼の奥さんから困ったことになったので来てほしいと頼まれてその人の家に行きました。

すると、その男性が銃弾の入った銃で自殺しようとしていたのです。

その後、男性と話したことで、あらゆる問題が発覚し、その元凶もわかりました。

彼は元々消防士でした。

消防署での待機時間に消防士たちがウィジャ盤で遊ぶようになったそうです。

ウィジャ盤で遊んだ消防士たちは、自殺したり謎の変死を遂げたりしました。

私が話した男性も自殺しようとしたのですが、何かに止められたと言います。

最終的に、ウィジャ盤で遊んだ消防士仲間生き残ったのは彼だけでした。

その後、この男性はクリスチャンになって、取りつかれていた悪霊から解放されました。

ですから、魅力的に見えても、悪魔がその陰で操っているかもしれない物事に気をつけてください。

ウィジャ盤やこっくりさんで遊ぼうとしている人がいたら、注意してあげてください。

悪魔は、私たちのために備えられた神のご計画や目的から私たちを徐々に引き離そうと働きます。ですから、その策略に用心してください。

今日の個所で、悪魔は七つの頭と十本の角を持ち、その頭には七つの冠をかぶっていると記されています。

この7つの頭は、7つの大国を指すと考える聖書学者もいます。その最後の大国は「反キリスト」によって支配されます。

この解釈を支持する聖書学者たちによると、10本の角は「反キリスト」の支配下にある10人の王を指します。

現在、10カ国が集まって世界を支配するようになるというのも想像に難くありません。

また、その10カ国を支配する人物が出てくることも容易に考えられます。

私たちの生きる現代社会は数々の大国の首脳たちが日常的に会合を持ち、貿易や私たちの日常に関わることを決める「地球村」です。

50年前なら、10カ国が世界を支配するというのはあまり現実的ではありませんでしたが、今は実際にそれが起こっています。

### 3. 「男の子」(5節)

5節で、男の子が登場します。この男の子が誰かはすぐにわかるでしょう。

この男の子は、鉄の杖で国々の民を牧するのです。

詩篇2篇を読みましょう。

2:1 なぜ国々は騒ぎ立ち、国民はむなしくつぶやくのか。 2:2 地の王たちは立ち構え、治める者たちは相ともに集まり、【主】と、主に油をそそがれた者にと逆らう。 2:3 「さあ、彼らのかせを打ち砕き、彼らの綱を、解き捨てよう。」 2:4 天の御座に着いている方は笑い、主はその者どもをあざけられる。 2:5 ここに主は、怒りをもって彼らに告げ、燃える怒りで彼らを恐れおののかせる。 2:6 「しかし、わたしは、わたしの王を立てた。わたしの聖なる山、シオンに。」 2:7 「わたしは【主】の定めについて語ろう。主はわたしに言われた。『あなたは、わたしの子。きょう、わたしがあなたを生んだ。 2:8 わたしに求めよ。わたしは国々をあなたへのゆずりとして与え、地をその果て果てまで、あなたの所有として与える。 2:9 あなたは鉄の杖で彼らを打ち砕き、焼き物の器のように粉々にする。』」 2:10 それゆえ、今、王たちよ、悟れ。地のさばきづかさたちよ、慎め。 2:11 恐れつつ【主】に仕えよ。おののきつつ喜べ。 2:12 御子に口づけせよ。主が怒り、おまえたちが道で滅びないために。怒りは、いまにも燃えようとしている。幸いなことよ。すべて主に身を避ける人は。

また、その子が神のみもとの御座に引き上げられたと記されています。

イエス・キリストの復活は、この5節の内容と合致します。

イエスは死からよみがえり、神の右に座しておられます。

この3人の登場人物が誰かわかったところで、12章で起こった出来事に注目しましょう。

### ふたつの戦い

7-12節には、天における戦いについて記されています。13-17節には、地上での戦いが記されています。この戦いはおもに、サタンとそのしもべたちと女として描かれたイスラエルとの対決です。

### 天における戦い (7-12 節)

ヨブ記の1-2章は、サタンが天に行くことができると教えてくれます。

ゼカリヤ書3章には、サタンが神の御座の前で聖徒つまり信徒を訴えようとしている様子が描かれています。

このサタンの行為は、サタンが常に神の前でクリスチャンの悪事を訴えようとしているという10節の描写にあてはまります。

12節には、サタンの時はとても短いとあります。

大患難時代の途中で、サタンは天から地上に投げ落とされます。

サタンについては、全世界を惑わす存在だと記されています。

サタンは、自分のしもべたちといっしょに地上に投げ落とされます。

サタンは天での戦いに敗れ、今度は地上であがきます。

### 地上の戦い (13-17 節)

天では言葉による攻撃をしていたサタンは、地上では肉体的な攻撃に転じます。

そして、イスラエルを集中攻撃します。

今まで気づけなかったかもしれませんが、「反ユダヤ主義」やユダヤ人弾圧の裏でサタンが糸を引いているのです。

イスラエルはこれまでずっと迫害や弾圧を受けてきました。

エジプトはユダヤ人をしいたげました。しかし、神がわざわいを起こしてユダヤ人を列強国から救いだされました。

バビロンもユダヤ人を迫害しました。しかし、神は彼らをあわれみ、残された民をイスラエルに帰還させて、エルサレムの神殿再建を導かれました。

ドイツはユダヤ人の絶滅を試みましたが、実現しませんでした。神は多くの人々を用いて当時のユダヤ人を救われました。日本人が用いられた例さえあります。

杉原千畝という外交官は、ナチス・ドイツの迫害があった時代に、6000人のユダヤ人を救いました。

ユダヤ人の人々が神戸港に立ち寄れるよう、通過査証を発給しました。

そうすることで、彼は自らの命も職も失う覚悟だったのです。

神は、大患難時代にもユダヤ人を守ってくださいます。

イスラエルには、「大鷲の翼を二つ」与えられるとあります。その翼で荒野に飛んでいき、サタンとそのしもべの攻撃から守られます。

15節には、イスラエルに対する攻撃のひとつが「大水」だとあります。

イスラエルの敵は、イスラエルに洪水を起こそうとするのでしょう。

もしかすると、ダムを爆破するというような計画かもしれません。

けれども、みことばは、地がその水を飲み込むのでイスラエルは助かると語ります。

神は、これまでも物を飲み込まれたことがあるので、再びそうすることがおできになります。

### 民数記 16 : 31-33

16:31 モーセがこれらのことばをみな言い終わるや、彼らの下の地面が割れた。 16:32 地はその口をあけて、彼らとその家族、またコラに属するすべての者と、すべての持ち物とをのみこんだ。 16:33 彼らとすべて彼らに属する者は、生きながら、よみに下り、地は彼らを包んでしまい、彼らは集会の中から滅び去った。

これらは、大患難時代の後半にイスラエルに起こる大きな出来事です。

### 適用

12章から学ぶべき日常に役立つ教えが4つあります。

1. 現在サタンは、クリスチャンと戦っている。

私たちはサタンに勝つことができます。しかし、それは神のみことばを信じる信仰と私たちの証によってのみ可能なことです。また、主イエス・キリストの血によって救われているならばの話です。

私たちは、主イエス・キリストとこのお方が私たちの罪のために十字架上で払ってくださった犠牲に信仰を置いていることをはっきり認識する必要があります。

2. サタンが兄弟たち（クリスチャン）の告発者であることを忘れてはならない。

神の御座の前で信徒たちを訴える根拠をサタンに与えたのは、信徒の罪です。けれども、私たちにはイエス・キリストという弁護してくださるお方がおられることを感謝しましょう。

ヨハネ第一 1 : 9-2 : 2

1:9 もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。 1:10 もし、罪を犯してはいないと言うなら、私たちは神を偽り者とするのです。神のみことばは私たちのうちにありません。 2:1 私の子どもたち。私がこれらのことを書き送るのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためです。もしだれかが罪を犯すことがあれば、私たちには、御父の前で弁護する方がいます。義なるイエス・キリストです。 2:2 この方こそ、私たちの罪のための——私たちの罪だけでなく、世全体のための——なだめの供え物です。

私たちが罪を告白するなら、イエス・キリストは私たちをきよめてくださり、サタンを黙らせてくださいます。

3. 他のクリスチャンを正当な理由もなく責めないこと、また責める必要があるときは愛をもってすること。

正当な理由もなく兄弟姉妹を責めると、サタンの味方になってサタンの働きの手助けをしていることとなります。サタンに用いられる器になりたいと思うクリスチャンはいないはずです。

4. 「反ユダヤ主義」というユダヤ人迫害に決して加わらない。

ユダヤ人は神に選ばれた民です。

イスラエルがなければ、聖書も救い主もありません。イエスは地上におられたとき、ユダヤ人でした。天におられる今もユダヤ人で、地上に再び来られるときもユダヤ人です。

そのことを忘れてはいけません。

私たちはイスラエルを慕い、イスラエルの平和を祈り、ユダヤ人の人々が主イエスを受け入れることを祈り求めなくてはなりません。

イスラエルが政治的に常に正しいとは限りませんが、神の民であることは変わりません。そして、神はご自身の民を守り、祝福されます。ですから、聖書はエルサレムの平和のために祈りなさいと教えるのです。（詩篇 122 : 6-7）